

遠藤原子力委員長代理の海外出張報告について

平成 15 年 11 月 4 日
内閣府原子力担当

1. 目的

フランス共和国パリで開催される O E C D / N E A の運営委員会に出席し、我が国の原子力政策に関して講演を行う。また、フランス原子力庁や O E C D / N E A の要人と原子力政策に関する会談を行うとともに、ラ・アーグの再処理工場を視察する。

2. 出張者及び日程

(1) 出張者：遠藤 原子力委員長代理

(2) 日 程：10 月 12 日 (日) ~ 20 日 (月)

10 / 12 (日) 日本発 パリ着

13 (月)

14 (火) O E C D / N E A 運営委員会出席

15 (水) フランス原子力庁訪問

16 (木) ラ・アーグ再処理工場視察

17 (金) O E C D / N E A 訪問

18 (土)

19 (日) パリ発

20 (月) 日本着

3. 結果概要

(1) O E C D / N E A 運営委員会講演

O E C D / N E A 運営委員会にて、原子力の平和利用と核燃料サイクルを中心とした我が国原子力政策の推進と将来の課題に関して講演し、我が国は引き続きプルトニウム利用を推進すること、プルトニウムの利用にあたっては透明性を確保して平和利用に徹することなどを説明した。

(2) ラ・アーグ再処理工場視察

六ヶ所村の日本原燃再処理工場のモデルプラントであるラ・アーグの C O G E M A 社 U P - 3 再処理工場を訪問し、使用済燃料貯蔵プールや中央制御室などを視察した。また、現地で運転訓練を行っている日本原燃職員と懇談し、訓練状況などに関して意見交換を行った。

(3) 原子力関係要人との会談

a. フランス原子力庁ブシャル局長との会談

フランス原子力庁ブシャル局長と会談し、ロシアの解体核処分に関して、我が国振動充填法によるMOX燃料を用いた処分の有効性を伝え、従来のペレット燃料による処分と合わせて、合理的な処分方法を検討することが重要と認識された。

b. フランス原子力庁ビゴ最高顧問との会談

フランス原子力庁ビゴ最高顧問と会談し、日・仏の原子力政策などに関して意見交換を行なった。

ビゴ最高顧問から、ITERに関して、EU内のサイト候補は11月27日の欧州研究相理事会で仏・西の候補を一本化したいとの見解が示された。

c. OECD/NEAエチャバリ事務局長との会談

OECD/NEAのエチャバリ事務局長と会談し、本年11月下旬の訪日を要請した。

エチャバリ事務局長からは同時期の訪日に関して承諾があり、合わせて原子力関係省庁や関係機関等の訪問、「もんじゅ」視察などの要望が表明されたことから、今後調整を進めていくこととなった。

以 上